

# 米価暴落 米はつくれどメシは食えぬ…。 これでは農業が続けられません

**概算金(昨年比)**  
コシヒカリ -2000円  
日本晴 -2800円

## JAおうみ富士概算金

(1等米・60kg)

| 銘柄    | 平成21年度  | 平成22年度  |
|-------|---------|---------|
| コシヒカリ | 12,000円 | 10,000円 |
| キヌヒカリ | 11,400円 | 8,500円  |
| 秋の詩   | 11,400円 | 8,500円  |
| 日本晴   | 11,100円 | 8,300円  |
| ゆめおうみ | 11,100円 | 8,300円  |
| レーク65 | 11,100円 | 8,300円  |

今年度産米の「概算金(仮払金)」が昨年度比で大きく下がっています。「これ以上、米価が下がればもう農業をつづけられない」と悲痛な声が出ています。

通常、2年後に精算されますが、「価格が予測困難のために低い概算金の設定となった。12月に再調整する」としてありますが、全国的な米価暴落のためその保障はありません。



野洲市農業委員

**梅影英治さん**

今年の概算金は昨年と比べて2000円から2900円も下げられました。そもそも米価はかつての半額です。生産費が1万6000円にもなっており、これではとうてい農業をやっていけません。

「政府は個別所得補償制度で対策を」と言いますが、なんの保障もありません。自由化をやめ日本の食料主権を守る農業が必要です。

このような米価暴落は、政府がコメの貿易自由化を前提に、過剰

低の水準で、かつての半額です。これでは農家はただ働きと同様です。

これは「昨年産米が全国で40万ト在庫として残り、今年度産の豊作基調もあり引き下げざるを得ない」として

今夏の猛暑で野洲市でも乳白米や胴割米の発生で2等米が増加しています。1等米との価格差はコシヒカリでマインス600円となり概算金は9400円にしかありません。

今年度の概算金(60kg)はコシヒカリ10000円(昨年比2000円引き下げ)、日本晴8300円(昨年比2800円引き下げ)となり大幅下落です。

米対策に手を打たないことが根本原因です。デフレ経済下で過剰を放置すれば価格暴落は底なしです。

**稲作農家 このままではただ働き  
コシヒカリで2000円も引き下げ**

## 米価の安定対策 日本共産党の提案

日本共産党は、価格保障と所得補償で60㌔あたり1万8000円を確保し、水田転作を思い切って有利にするとともに、「米の需給や流通の安定に政府が責任を果たす」ことを重視しています。

備蓄米は最低150万ト確保し、不足時以外の売り渡しを中止し、3年以上経過した古米を主食以外に振り向ける「棚上げ方式」導入。米の生産計画は、需要見込みより50万ト程度のゆとりをもち、剰余米が発生した場合、政府が買い入れを増やすことで受給調整することを提案しています。



**やす民報**

日本共産党野洲市委員会  
2010年10月10日 №206

暮らしのご相談・要望  
お寄せください

小菅六雄  
野並享子  
太田健一

(電話・FAX) 589-4971

(電話・FAX) 587-0985

(電話・FAX) 588-3169

(メール) shgdy177@ybb.ne.jp

(メール) no73kyo\_ko@ybb.ne.jp

(メール) kensan.world21@docomo.ne.jp

市議会ホームページをご覧ください

<http://www.yasusigi.net/>